



# 地域と連携したシカ被害対策

四国森林管理局 高知中部森林管理署

## はじめに

山々に囲まれ、急峻な地形の多い高知中部森林管理署管内では、近年ニホンジカの生息密度が非常に高くなってきています（写真1）。このようなか、人工林における植栽木への被害のほか、三嶺（1,894m）周辺などの天然林を含むエリアでも樹皮剥ぎや下層植生



写真1 ニホンジカ

の衰退をもたらしており（写真2、3）、水源涵養や土砂流出防止といった森林が持つ機能の低下が危惧されています。

シカによる森林被害については、シカが以前から多く生息している山奥だけではなく、平地に近い民有林においても深刻な問題となっており、農作物への被害も多く発生しています。このため、地域と連携したシカ被害対策が必要となっています。

## シカ被害対策の課題

当署では現在、業務委託や職員実行による捕獲事業を実施していますが、人の出入りが困難な急峻な地形が多く、人手不足や高齢化が深刻化する中、従来の規模で事業を継続することが困難になってきています。とりわけ、罠による捕獲は、罠自体やシカをおびき寄

### 管内概要

#### 所在地

高知県香美市物部町大柝 1539

#### 区域面積

53,786ha

うち森林面積 47,844ha うち国有林面積 12,693ha

#### 関係自治体

香美市



高知中部森林管理署の管理する国有林は徳島県境に隣接した高知県香美市に所在しており、1級河川の物部川の上流部や三嶺（1,894m）、石立山（1,707m）、綱附森（1,643m）周辺に広く分布しています。これらのうち52%が天然林であり、地域を代表する多種多様な林相を形成していることから、その多くが国定公園、保護林、レクリエーションの森等に指定されています。





写真3 下層植生が衰退した林内



写真2 シカにより食害を受けた三嶺



写真4 ジビエ活用の検討



写真5 協定調印式



写真6 ICT捕獲通知システムの中継器

## 協定の締結へ

せるための餌に費用がかかるほか、設置した罠の状況を頻繁に見回りする必要があるため、捕獲事業実施者にとっての負担となっています。さらに、捕獲後のシカの処理にもコストを要している等の課題があるため、シカの捕獲と並行して、ジビエの活用までを含めた関係機関との連携が必要不可欠です(写真4)。

このため、当署では地元自治体である香美市や猟友会と連携し、民有林と国有林が一体となったシカ被害対策及び

ジビエ活用を推進するため、令和4年11月25日、依光晃一郎香美市長と岡林静窺<sup>せいき</sup>香美猟友会長及び吉良康高知中部森林管理署長の三者で「シカ被害対策及びジビエ活用推進連携協定」を締結しました(写真5)。

協定に基づく主な具体的な取組は左記のとおりです。

- ① 署から香美市、香美市から猟友会への困り罠等の無償貸出し・撒き餌の支給
- ② 捕獲時の林内移動を効率化するため国有林への入林手続きを簡素化
- ③ 罠に獲物がかかった際に通知が来るICT捕獲通知システム(写真6)の活用や罠の見回り協力

## 今後の展望

当署ではこれらシカ被害やジビエ活用の現状を地域に広く知らせるため、学校での森林環境学習を通じて情報発信を行っています。また、シカ肉を活用したペットフードの開発等を行っている高校のジビエ部へ獲物を供給する活動も実施しています。

今後も一層地域と協力して、捕獲のための取組を進めるとともに、ジビエ需要の拡大にも取り組んでまいります。